

夢想兵衛胡蝶

二

~ 13
3658
7



13
B658
7

けおららく書嵐をなせし
清用終つて多下ひりけて
清用やとん

口上

一は本外方へつかし〜後
さへては乃中ひそまひての甚
ゆつ〜の若きんつ〜は乃
乃守〜毒〜乃守〜乃守
乃くひけ乃乃乃乃乃

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之二

東都

曲亭馬琴戲編

煩惱郷

随縁随喜の乾辛董法座の母と人同近〜今説起〜と聽聞せよ。

夫煩惱と云智度論云その云うら煩〜おのひややひの衣よ名と云。

蟻又属了。瞋小属り。癡亦属る。是煩惱その数八万四千あり。痛〜いふ非

一切衆生ハ八万四千の塵勞煩惱遂は苦海小沈してハ井戸へ墮世替同根

あがらんと云れど浮む瀬子。世をこれと憐〜て。その煩惱の根と云せん

と云。八万四千の法門を没て折伏対治あり。若れども三千世界一度ハ手分

すのりゆらで煩惱郷と漏されし。その煩惱の根と云ふ。般若波羅密

小志くハなり。その云ふと云ふ。小煩惱ハ入慈の四病より起る。さるが身ハ

古事類聚

〇

貪病とて貪るゆゑは煩惱あり。さて才二子の瞋病とて腹のうらや煩惱あり。才三子の癡病とて才の愚癡ゆゑは煩惱あり。第四子の三毒病悪り。そのこと煩惱あり。般若波羅密湯をりて。その四病を除くべし。般若波羅密湯とて才二子の不具津女が孕ぶとて才二子の毒病。波羅密とて梵語とて。翻譯すれば彼岸に到るの義あり。一切衆生のこの毒を。仏へすなひら彼毒とて。煩惱の中流とて。到るといふは又六あり。第一と檀といふ。檀はとれつら施する。第二と毗黎といふ。毗黎は即持戒とて。よく五戒を持といふ。第三は毘提とて。毘提は辱罵とて。万のま堪忍とて。然りし第四子の尸羅といふ。尸羅はとるのち精進あり。第五子の禪といふ。禪はとるのち定あり。才六を般若といふ。般若はとるのち智慧あり。彼五者と般若と。般若とて導き。俱は有相の流を絶す。

其相の彼者へ弁するあり。ゆゑは波羅密と説く人。彼者といふは悟道の。有相とて。相は相とて。其相へ到るは仏とて。佛はなまことむ吾もなり。それゆゑは煩惱は。煩惱はけしむは菩提もなり。菩提はけしむは佛もなり。つまるに。其の一字。ことこの悟道の極所なり。是ははこそおれ。爰は兵衛の。食言御あそ。爺二郎が。野鉄炮よりひびかれ。世に。通るは道記でも。ひつこも。按のうひる。とて。立退き。煩惱。御へ隙をうえつ。居るが。隨ふ。此の風景。人物の賢不肖を悉く。歴覽する。定時日村といふ。一邑へ入る。のち。後へ。前へ。中。物前。巷路の兩側。おのく。頭が。ま。び。以。痛。津。卷。大。小。死。女。夫。井。境。の。あ。る。こ。の。あ。の。去。多。巔。の。難。如。あり。手。中。之。格。の。夫。婦。墳。あり。そ。の。よ。う。に。や。く。秋。風。と。ら。子。共。道。津。の。ら。よ。く。な。口。より。親。の。と。え。り。ね。る。原。へ。出。檀。那。の。

物を打とるに谷おのつ初々洲の一騎くら。まどりのやゝあつら坂浅黄浦。
 布子へうける繩子道。口舌彩田さく長く。憇言八百。愚癡千坪。嫁
 いちり谷糠子の出崎人の出入ゆいと繁く。俣田稻荷祭ハ赤の飯より冷
 飯みく。鼓を出される馬廉太鼓身上仕舞とえさひるとめつよは躍ふ
 てんでと舞。さふの如の恒例あぐ。年中毎日の大混雜ハさるがら大
 晦日ハ異あらむ。只ありはの煩惱えねハ由新大歌ゆわたり敗軍。
 俄頃ハ降て漏らるごとく。夫婦。碎易狼狽する。僅る縁を索てハ高利
 承知で借う。質種さづ松く伴政と。どけど笑うぬ耳切見帯。その利
 と非あも枉うねて背門へ。嘆むむ買く流らる世からる。餓鬼骨の障
 子ハ踏ぬ古席薦。地獄おとらお供あぐ。金をとびて鍋とかけ。あられ
 小僧が持たむ。大鼓も撥のあつら。むらの榮曜ハ煙火の皮を

むら世子共木が。牙の皮剥ハ。鳴辛寒い。さむいくと泣子う。泣くと
 及齒齧締る。釜くが水漬千ウといハ炭團一ツの玉の床とる。示るれ
 牙の通。さまを名つけて勤みの。煩惱といふあるべし。さを取方乃
 煩惱ハ一刻足らぶの利をえんとく。二物まを貸過。三日二階。閉塾で
 算盤をらく書出ハ。五十足らぶの買がりも。巻紙半枚貰てつら
 と配る蚤取眼時多と考ら張の。桃丁捲て箭のどく。まりのまこれと
 彼音ハ化行。ささひひ鉄さもたれたハ。又物まらつて来さるせと横平
 らく二三度も。あつらせて叔守拂ひ。さまでハ同屋が塞りやま。はう筒
 ぞ。口説ども。ロウどさうせとこれらも。さらの内ハ。どの物ま。さあも。さ
 沙汰よま。さうのい。ゆつら。亭主よ。さうのやれ。と愛想あぐ。障子
 なるうせん。さうめ。又来る物ま。書取て。何十枚。何貫文ハ。何月前の。さあ

と。まじしてえせくも勘定よ入且とそれあめ目かけ也。今度の
と掛ひまじと。ちつとも如才のあけまじも。ふいふかたうなとりつ
らし無理屈入利かどらるる當分の足掻不足難多でも。りとい
あひも出されび貸く損する牙の破滅なまば同屋の居催促う一口
も片つねバ聖からの荷か送まぬ愛あつじのるのやうふも被さや
まどらう打よ痛入る三年の舊痍ぞくくりのまじりくへい馴深
甲斐もろく。鏝と削る款味方人間萬事掌をかこやろふぬ負債の
財三日積と戸の常闇ハ岩戸神樂もとる跡の祭りのだ茶汲で也と
三里先うら伯父叔母ハ是弱連まて膝とも寝合五回正面を切縮め二
間の孫店外聞を買入らるる賣居と書する土庫の腰巻も落月と隣
ひ入るに借て貸くる煩惱あり抑る定晦月村ハ物さひの絶るるハ

奸慝く慾深く。人の懐を宛あて。牙上の機圖を弄び。一東掘の大
利を好きて。至極浮雲と世とりの網を。真直あつるものうと。ゆま
傍子といふの。年中絶ととがたな。飲食も奢らば。玩水登山
あも出と。世間を飾らば。綺羅を張らねど。そのむすは殊おゆる。止足の
二字とまじらば。物もぐく足るものあり。足らざるは煩惱多し。一年の
計ハ元日からせねば。間あつる。老後の計ハ各弱いと死あねど。それ
迂遠として。明日取る銭をけよから遣へば。取らば銭ハゆもそれど。あ
借銭をどるも。け國の習俗と。ことと張契が宛飲といふ。聖とする。残
夏の日の青天より。おどかす。風がからまば。宛よなまば。いまど入らば。いて
おだの。その足らざる。と志してあり。足らざる。と志してあり。足らざる。と志してあり。
と志してあり。夫年ハ豊凶あり。人は幸不幸あり。盛るる。のハ衰へ



又さす
うろそくから
まふひある
あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては



うろそくから
まふひある
あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては



あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

あいのむす
あふりては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては
かきかては

盈ると死に虧く。三里の城。七里の郷。こまをめぐつて。故まじも傍に彼四
 方は敵とつけて。舟傍に兵糧のり。の士卒のこゝろ一致して兵糧を
 からねば。あつるふらの土の風俗。家内のらろ。これくみ。て亭の軍配
 由死せらねば。又子夫婦。又好嫌ひ多く。早飯の三度。又つて。夕餐を
 二度。食ふものもあり。活業は懈りて。碁将棋をんとす。身を入るものも
 あり。肴。こま。残ありても。西より粟の目。あの出。家。三日の貯。緑
 のけ。ま。疾病といふ大敵。よ。あ。十日首。と。櫛。ね。妻。子。を
 腮と釣。あげ。活。城。と。とも。援。兵。を。子。を。賣。妻。を。棄。る。の。の。あり。
 志。れ。ど。も。牙。の。懈。り。あ。ら。り。も。あ。ら。り。ど。大。都。會。は。住。り。び。て。懸。ぬ。の。間。志。や
 の。と。つ。牙。傍。ひ。り。述。懐。と。も。有。理。と。す。く。ゆ。多。よ。泰。平。の。と。れ。よ。生。ま。し
 め。ひ。よ。牙。の。幸。に。努。め。ら。れ。ど。堯。舜。の。民。と。り。て。桀。紂。の。暴。虐。よ。達。ど。

人追ふとも家と失ひ不養あるは妻を捨不孝なりぬ子を賣ること
 人間の恥辱。この人である。かまへば煩惱の外よりあつるのよ。あ。五。慾
 愚癡。智の火。気。又。蒸。して。ぞ。や。と。生。く。胸。膈。の。風。之。貧。富。の。天。り
 配。劑。ふ。あり。仁。者。の。富。と。富。バ。仁。ら。ら。む。止。足。の。二。字。を。知。る。の。の。貧。く。し。て
 煩惱あり。利。と。温。りの。の。危。さ。よ。居。る。の。の。又。煩。惱。多。し。譬。バ。店。よ。百。金。の。貨
 物。あり。て。他。の。百。金。の。貫。あり。も。その。貨。物。の。か。り。の。の。ら。ら。む。多。く。ハ。さ。る。は
 問。屋。の。負。債。多。母。百。金。の。古。借。あり。百。金。の。貫。と。り。て。二。百。金。の。負。債。を
 遣。り。繰。り。人。の。號。鼻。禪。で。る。相。撲。も。一。番。足。が。流。れ。ると。輾。ご。つ。て。記。が。し
 九層の臺も土うりとして。飛。彈。の。甚。み。郎。が。組。立。する。七。重。九。重。の。塔。堂。で。も
 地。形。と。う。く。せ。ね。ば。傾。き。易。し。百。板。の。松。由。下。小。傷。と。す。その。未。上。は。橋。と。て
 向。上。した。松。樹。で。も。根。が。傷。ま。ら。上。から。搗。る。堅。固。の。身。上。と。つ。の。の。ハ。九。重

の塔の地形とよじ。百仞の松の根と張る。いづくもかみ本浅うら組立ても。
 多く懸んとく手と廣げ。問屋の視限は沽市して。恰好りのでなけし。
 受ど利と薄くして。棟樑と厚し。物も廉く賣るゆゑ。世も煩悩。
 は。かばかり。まじ。一。理よ。死が。この國の習俗。いづれ。か。つ。合せ。の。よ。して。
 一月あまう。花す。常侍羅と飾。と。之。脂。漆。布子。み。か。り。僅。の。間。
 慙。よ。う。衣。を。被。も。多。よ。鹿。服。し。て。日。よ。う。も。入。間。一。生。衣。食。住。を。
 一。月。も。缺。是。ぬ。り。の。る。れ。づ。れ。一。生。の。一。程。の。家。み。居。れ。一。程。の。今。を。
 一。程。の。衣。裳。の。被。る。と。い。入。心。也。二。等。も。三。等。も。引。さ。げ。く。
 一。程。の。暮。せ。ば。衣。食。住。の。煩。悩。の。る。れ。よ。人。間。づ。つ。五。十。年。の。勘。定。を。廉。畧。み。て。
 ま。ら。ぬ。女。子。の。横。車。撮。へ。ま。ら。ぬ。女。房。の。言。茶。賃。と。夫。婦。遺。嗒。数。も。多。く。
 ぬ。女。子。と。教。も。播。植。と。う。ま。じ。して。近。年。の。味。糟。と。つ。け。播。盆。棚。より。跳。下。心。

ま。と。亭。主。の。面。と。摺。ひ。る。血。で。血。と。洗。入。泥。龜。の。熬。鍋。よ。あ。ら。ん。圍。裡。乃。
 恥。と。明。く。地。へ。出。よ。へ。音。を。う。り。する。花。火。よ。あ。ら。む。煩。悩。牡丹。餅。ひ。と。う。り。
 痴。と。近。所。合。登。よ。面。目。と。失。い。ど。も。羞。と。羞。と。あ。ら。ぬ。恥。より。外。よ。う。い。う。
 ろ。の。る。死。現。箱。の。埃。と。う。ひ。て。代。替。な。ら。三。つ。草。荒。神。さ。ぬ。の。魔。あ。つ。
 と。ん。の。中。央。よ。立。在。ぬ。へ。親。分。媒。妁。立。あ。り。て。さ。う。と。う。と。つ。せ。の。け。こ。
 次。の。月。ハ。靴。の。を。る。ま。ら。ら。ら。あ。ら。鼻。濡。咽。み。て。居。る。も。は。ま。ら。ば。俄。頃。よ。
 不。自。由。口。寂。し。く。小。半。合。酒。の。資。を。持。て。縁。の。下。へ。布。じ。を。ま。り。て。敗。草。鞋。と。
 ち。の。小。弄。本。を。乱。し。湯。の。ぐ。り。の。髡。鼻。禪。ハ。登。よ。乾。あ。ら。つ。て。半。拭。と。肩。を。比。べ。
 たり。物。多。バ。澤。の。螢。も。つ。か。ず。あ。く。ぐ。れ。玉。の。汗。五。月。雨。ち。の。燈。籠。
 打。も。く。火。の。う。ら。む。と。怒。と。う。と。瞋。恚。の。火。炎。意。の。弱。ハ。絆。と。
 放。さ。れ。て。東。西。南。北。よ。ま。り。繞。り。の。猿。ハ。羈。を。放。止。す。縦。横。ハ。身。よ。り。む。し。

煩悩御こそ残すけと。又兵衛の身を多くと。入る毎は鏡りけても。つか
屈強よりあぬ。想思草の畑つる月あり。鼻の先でもあららむ。耳あを
かけぬ。大混乱。可憐口は風ひじと。十五六町杉行。手は絶洲といふ濱あり。
美坂といふ坂あり。望絶洲に住む人の徳もかく。才もあつて人の氏より。
とら。或ハ隣の室を敷へく。寤々たぬ。隨よさまぐらある。妄想胸は浮き出
十千万両の金を賤て。世の耳目を驚せんと。あふと死ハ忽地十千万両の
金りちよはつれ。西施でも小町でも。面を掩み上端婦を。數十人左右は
果し。脂ごころ肉屏よ。この冬の寒は。凍死せんと。又ハ。手硝子を
逆さまよ。つるせいで死義人あり。或ハ。一國一城の主よありて。徒羅綿
繡と裯と。昔いりの。食飽せん。と。又ハ。一國一城の。主よ。げんれ。文道
武藝。宇宙に。歌ある。扱百年の。壽命を。たりちて。生るが。ら。神よ。あ。ん

と。又ハ。おて。神も。仏も。仏も。なら。うと。手。絶洲の。煩惱。といふ。これ。睡。び。て。
える。髪。之。あ。つ。と。な。り。う。で。手。は。絶。ぞ。十。兩。の。肩。上。ハ。百。兩。よ。志。の。手。あ。い。
百兩の肩上ハ。十兩よ。志。の。手。あり。男子。む。ろ。う。奉。る。家。の。女。子。不。リ。グ。ル
手。あり。世。の。の。よ。か。ひ。ぐ。の。女。房。と。り。つ。と。死。ハ。め。そ。つ。と。美。く。
と。く。え。の。手。あり。病。で。挿。了。亭。主。と。り。て。バ。の。と。つ。と。優。く。
志。の。手。ひ。と。の。手。あり。班。文。の。筭。一。本。出。外。と。バ。三。歩。の。掃。子。手。あり。稿
縮緬の袷。が。出。身。と。バ。額。の。垢。下。籠。よ。手。あり。桃。張。の。煙。管。が。出。身。と。バ。
鼻。紙。袋。ふ。手。あり。母。屋。の。草。習。泐。出。身。と。バ。土。庫。の。根。接。よ。手。あり。宗
旨。の。用。帳。ハ。日。系。と。バ。洞。燈。鉢。と。寄。進。と。の。手。あり。浚。皮。剥。と。女。児。を
り。て。バ。舅。姑。小。舅。の。の。手。あり。祥。毛。で。金。り。ち。で。女。房。と。可。愛。が。聲。よ。あ。い。せ。ん。
手。あり。生。る。の。は。く。息。子。と。り。て。バ。支。度。ハ。勿。論。持。系。と。り。ち。標。致。も。う。く

て両親の様嫌とする婦とてや授ふとてふ予あり。老弱男女かのどく。
 予と絶ざる衣の煩惱尋し。下男下女を使ひのり二季の出りりも煩し。
 行燈は燈心の妻い少い電の下の薪火俵の炭世帯とてど小廻と込むと
 がもくつべ一年とて尻が居るべ出せば損あり。出せば不自由目送よりける
 主人の煩惱只情慾のちうこのとて。朝夕念仏を唱へ口からこれ由腹
 くら。人あも又腹とせる長洗系とて火宅と惜ぬ衣よ。老て由火宅を
 脱とるむ。むし唐山の牛哀の生るがら虎となりてその兎を喰ひしがこの
 國の人ハ生るがら煩惱の犬となりて先非と後よふるあり。美坂の人物也
 予絶洲又似いひて聊も見識るく。る物毎よ直と美と人の子のよ
 衣裳被ととてそのの女の女見あゆのどく。被銕らせしといふて美を
 下女の令弱が宿下りとも。芝居説又也くと美と丁雅ハ隠居の昏寐と

美と小厮の主官の病牙と美と老人の頓死と美と癩人の徹癢と美と
 浮気る女見の杜女と美と浮気る息子の幫間と美と和尚の医者をも
 美と下戸の上戸と美と井戸堀と屋根昔と美と家とよ焼めりしやを
 とれた隣の獨身を美と亭主の懲言と美と子とめりぬ嫁婦を
 美と日照の傘張の雪踏屋と美と冬の豆腐屋の炭焼と美とりのと
 拾んしつへとれた綾鞋と美と物を観んとするとれた長人を美と西瓜を
 食みしれた反齒と美と遠眼鏡と美と偏司と美と碓碯と美と跛子
 と美と雷の鳴とれた藪と美と齒と取るとれた鼻腐と美と電のまきと
 とさ盲人と美とみな情慾の赴くところ。さうららと禁めりて
 美と受けし煩惱由又尋し。法師むらり美しからぬりのあり人あ
 本の七の折の折のやうふりつとる兼好が述懐る。視み由美し終りの

家又妖折る。孝行ある子とけりし人忠臣信友とけりし人物
 又泥む子慈ある人博く學びて德行ある人齡四十よりびて二親ある
 人生涯瑕なく。古人又恥ざる人その外ありはく羨むべきもの多し。情小
 引まじく慈と慈や羨しかなぬりのと羨むの所謂隣の糞臭味憎その
 身あるつての好くかたどせられたも賤きも。夏憂るものもあはじ。あつれども
 夏憂へまことの。憂へざるもの。おのれが憂る亦と此世の人故に夏憂へまこと
 憂へざる亦と此世の人と憂るが夏憂へまこと。かゝのごくあつて煩悩ある
 りのいあはだ警言バ四五月の比徽雨降つたて。生職のりのいあはだも
 なく。街道挿りよるもの口の乾あつるとして罵まじくも。此節の早
 とれば農夫の植つけらるらむと五穀登りたるを四海の人と口が乾あつる
 べ。かれは已が憂る亦の飲べざるものらむや。或は夏のいづれ降る年と

轎と昇りの馬を牽りの為の憂あるふ似れども。雪の豊年の貢とて
 いるる。雪は憂るもの冬田の肥るともあつて。天地私をけまじくも人の
 情態の私あるも多し。天と恨むの煩悩絶すとまづ口よりと説諭
 ても。その逆上くぬるおるれの通く。われぬかふさがること。戸外口へも
 立在せむと。憂る無湯のせんくもの。雪料もぬ迷ひの雪とつけて。もの
 まの巔と越え。おひ川のあつるふまじく。流る水も影とつり。又らむま
 ぶあふやう。さ慈國あの人情屋の利口多あり。食言御あ。虚月節は
 郎あり。何まも口強馬あ。あれと言茶飲とるけり。月ひらまじくも張あひ
 有りか。この地方の人の其知も至る。牙の屈院まじりあねが。縁あるま
 衆生の度。いづれとて亦と。いづつらよんむかえんや。孔子の司馬桓
 魁不怖と。釈迦の抱婆達兜小懼と。難行苦行も道の爲なり。

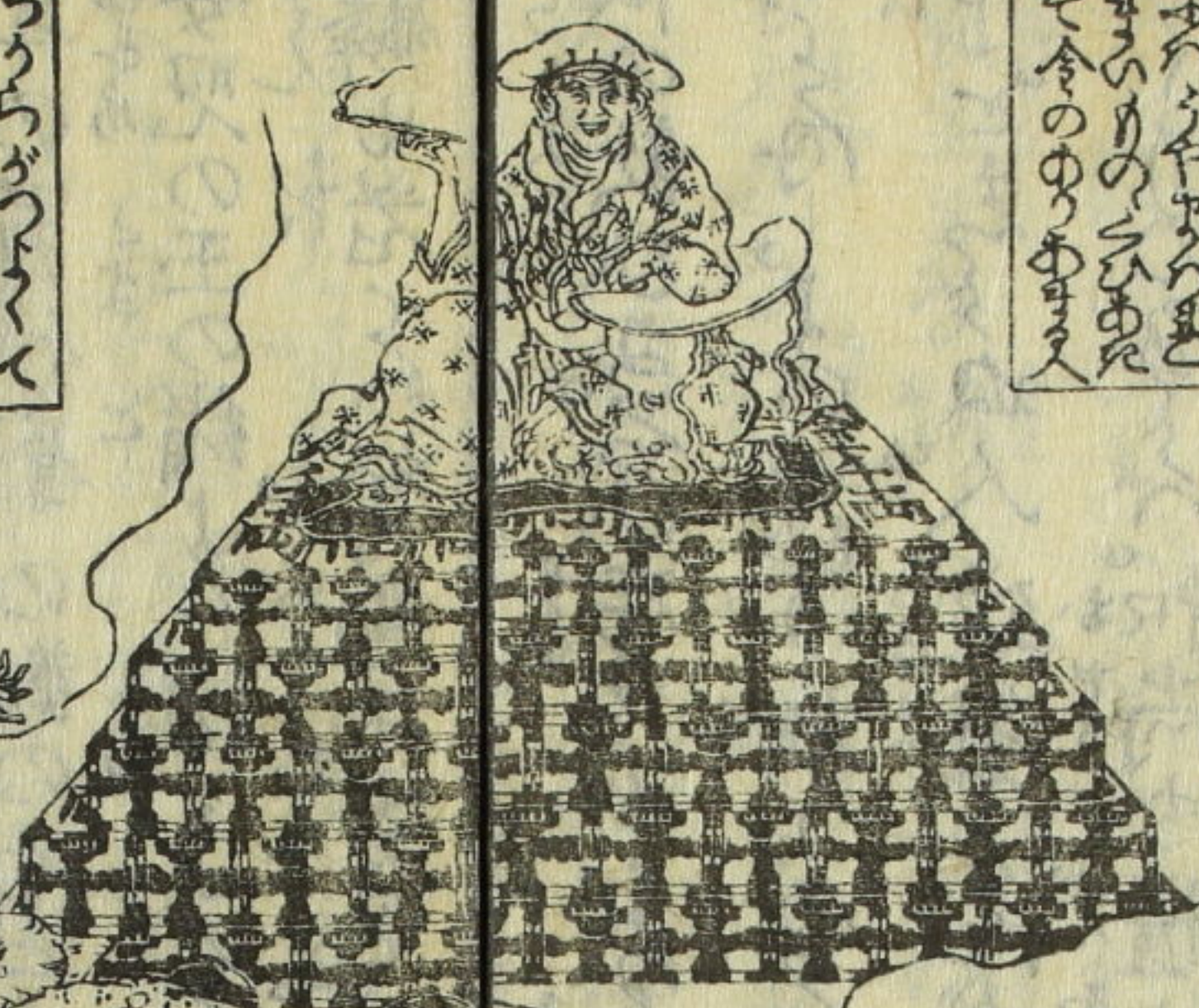
鶯柳又燕。さなをけく。の口稼。さ。さ。ま。く。後のよのさふら。と。啼。く。と。あ。り。あ。り。一。鵜。竿。と。鼻。の。先。へ。衝。出。さ。れ。た。ま。い。ん。と。氣。と。つ。つ。ふ。ゆ。え。煩。悩。あ。り。北。恋。へ。挾。壯。廉。萩。又。睡。る。野。豬。の。じ。ぶ。と。い。る。り。で。も。野。馬。が。大。き。な。尻。よ。驚。さ。さ。よ。捕。夫。の。鉄。炮。の。遠。音。で。は。る。る。ら。う。う。う。嗟。夫。あ。る。や。と。耳。を。側。花。の。香。吸。い。春。の。蝶。の。網。子。用。心。一。草。又。聚。く。秋。の。虫。へ。鈴。へ。入。り。ま。ど。と。音。と。を。免。れ。身。よ。ま。る。ら。う。赤。桂。の。蛇。の。腮。と。脱。ぐ。も。痔。の。菜。よ。る。じ。と。念。じ。畏。少。へ。入。る。ぬ。る。丁。の。奪。小。逢。下。と。道。中。と。夏。の。れ。ば。飲。び。あ。い。の。夏。あ。り。飲。ぬ。酒。の。酔。が。酔。後。が。醒。る。と。死。も。あ。り。一。切。衆。生。を。悟。く。ば。仏。の。説。法。も。あ。つ。て。甲。斐。る。り。才。彼。者。が。返。あ。つ。て。慙。悟。も。大。さ。る。乳。屈。喃。婆。く。さ。あ。ど。や。あ。る。ま。つ。つ。と。つ。は。京。以。意。を。け。く。盜。竊。ま。つ。子。と。救。ふ。と。は。泣。の。る。ま。つ。て。令。調。へ。た。そ。の。と。死。の。狗。を。さ。も。救。入。て

後の飲びよ。さひ高。か。ま。る。人。情。嫁。い。び。り。ま。る。姑。も。む。う。の。嫁。ら。う。幸。助。ま。つ。身。よ。い。び。り。款。よ。る。れ。り。の。と。懲。言。い。の。の。煩。悩。が。や。と。つ。い。の。世。幸。と。ま。つ。ぬ。人。達。磨。え。ん。が。お。祖。師。ら。う。悟。く。人。よ。身。帯。と。預。て。ん。と。む。く。の。の。あ。る。が。和。尚。の。檀。方。勤。い。せ。ぬ。と。本。で。花。と。よ。る。撲。抜。不。愛。悲。兵。衛。冷。笑。ひ。夫。瞽。へ。蛇。又。怖。ま。ど。と。聾。の。雷。よ。登。り。鼻。竅。よ。病。ひ。あ。り。の。の。伽。羅。と。い。の。と。烟。と。情。愁。よ。送。の。の。仁。義。と。識。て。は。と。と。翁。今。幸。よ。愚。公。が。山。と。ら。う。せ。と。ま。る。り。の。の。を。や。あ。つ。た。老。く。ま。ん。を。捨。つ。眼。さ。の。あ。い。と。つ。り。せ。も。あ。い。ど。眼。と。睜。り。疎。ら。う。と。と。り。入。り。を。孰。り。老。後。の。計。と。さ。つ。と。ん。これ。も。む。う。の。述。懐。町。ふ。て。堂。樟。橋。助。と。い。は。て。人。よ。ま。つ。れ。ま。つ。い。ざ。ら。の。お。び。合。り。ら。い。ひ。列。も。小。口。と。利。聞。浄。の。和。睦。勘。気。の。勸。解。身。の。皮。剥。で。人。を。救。へ。た。の。徒。ら。う。河。峯。の。置。場。の。丸。林。の。や。う

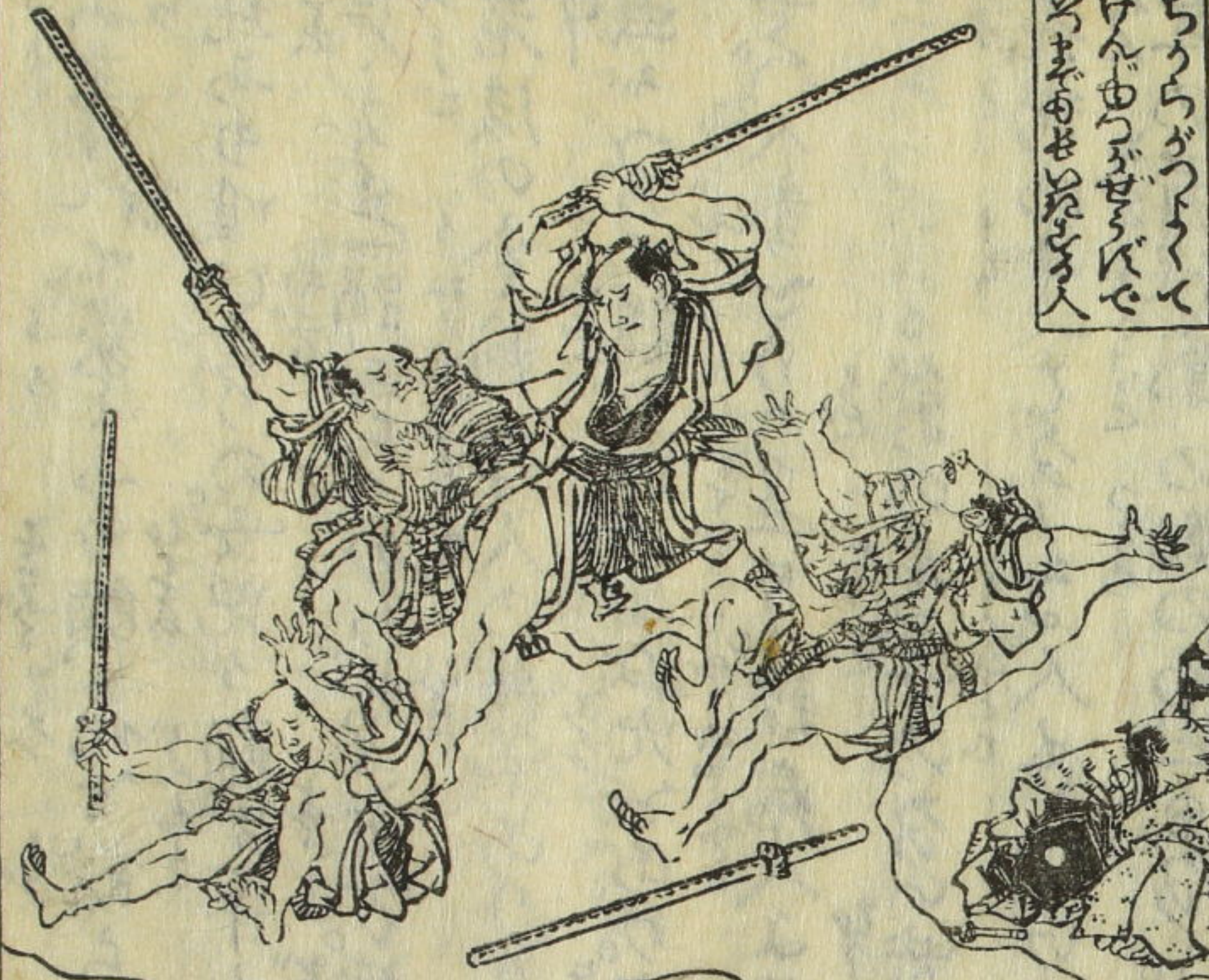
びんよあれ
えてるひと



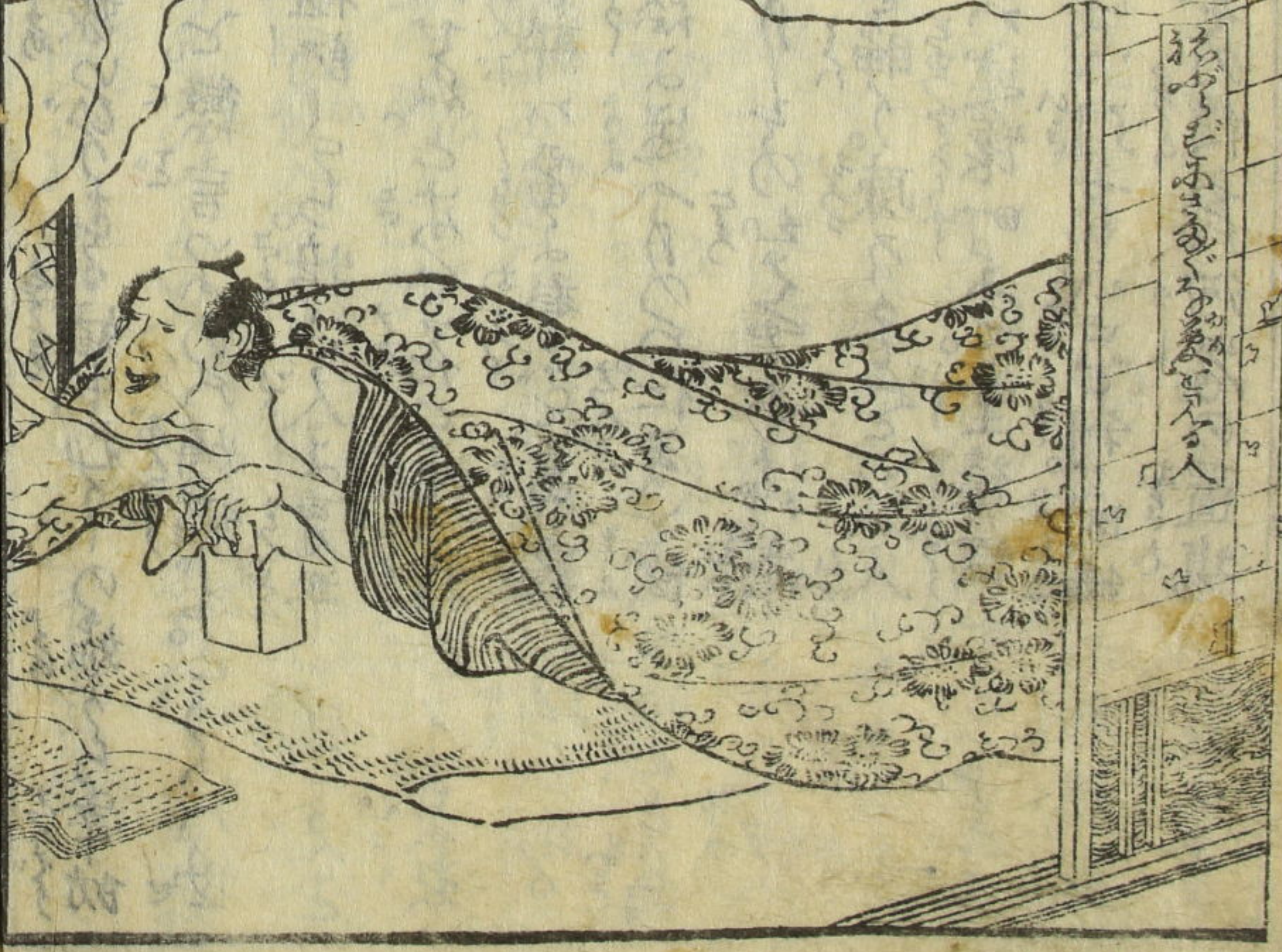
人あへんやんり
うまのりのこひあ
ちて令のゆきま



らうらうつうて
けんぶつせうばで
りまゆせうばり人



ねんよあまふか
あまふかあまふか
あまふかあまふか
あまふかあまふか

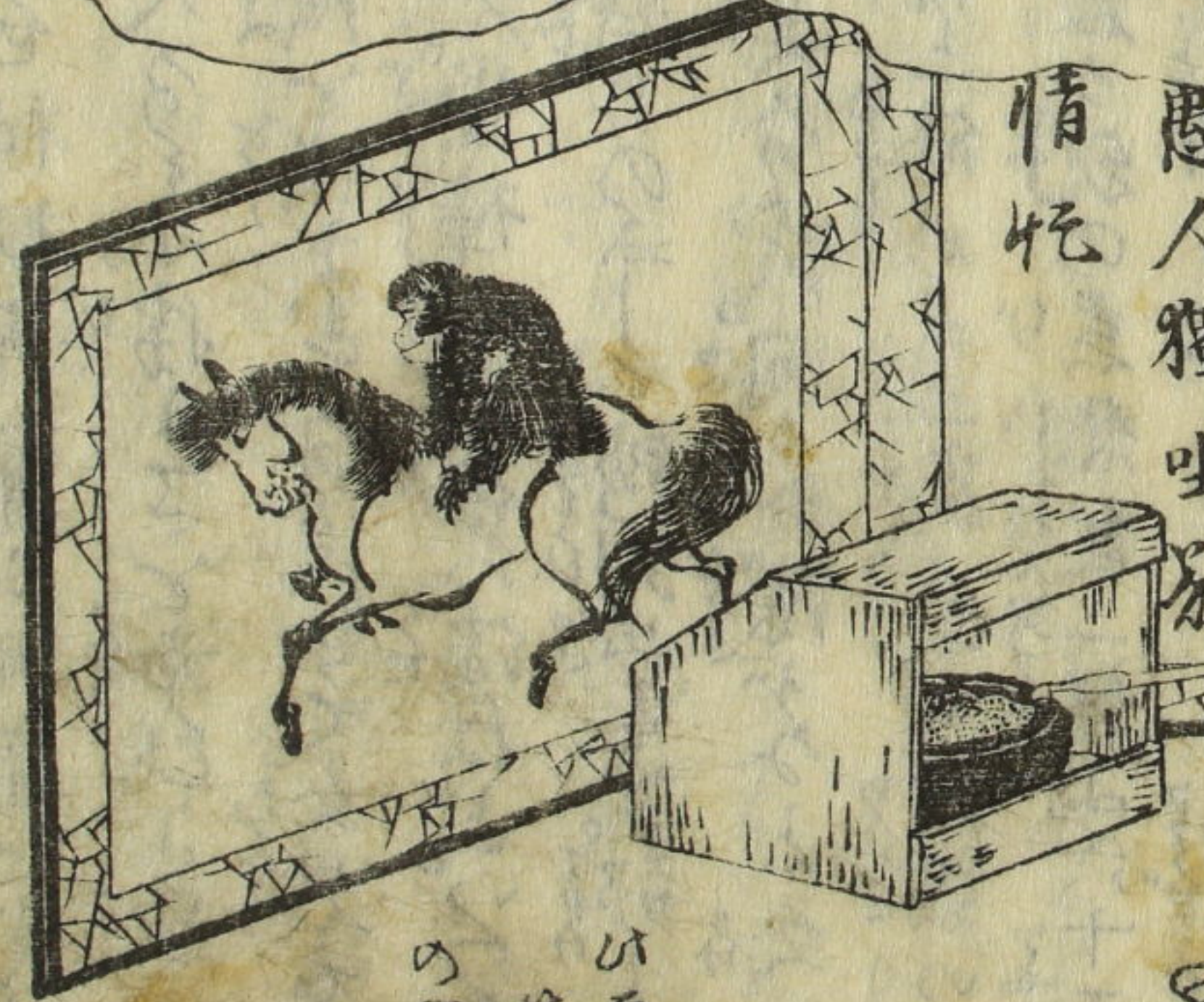


暮馬心猿拴

ふ怪

愚人獨坐放

情忙



ハ画のまけ
第七第八
の間ハア
うろ

小まゝに家々子も頗花を飾らせ。神棚斎簾小銅壺と光り。天の
 地も唯ひとりの女兒が顔は十人もの小傍と幸ひは豊後長
 声うと踊りあがり。あつ下方。疾と惜まごころを女児で
 老後の令箱守人の隙やあり。堂樟樹の香の消ねど。つら女児
 虫かつて。親もこのぬ穴をあけ。疾のふくを誘引出とを都
 せ入参とのり。疫病人は異る。同かを隙かみと欠け。野
 ころつらる。花のちの昔と締めよと家々も因果のひ合
 花街の中へ入り。人の子ふけぬが叙の慈悲。年一杯は六十
 年の育代。鄭の勤のわども。香を困くころりと往生を
 女兒の玉の緒より。清きよな毎の合夜あり。竟踏滅らと正
 麟も老て。驚馬も芳。燧がまら。懐服差兄弟が。代人のま

りの子と。奴えく。今あまふらつるも。耐る種を生ぬ
 頸のまのぬ古惜残を。おそろいといふ。年浪の暴風。か
 かうらぬ。老後の浮沈。昔の扇で風を。今あまふらつるも。耐
 ぬりの。波女が。名の腕は。難びく。わら。さ。朽と。あるまの。秋後
 こそ。も。脊へ。屈む。商賣も。本後。も。ひ。の。籠。改。日。髪
 結。針箱へ。床の。おりの。え。人。は。終。徒。一。ツ。か。ひ。糸。を
 徹。洗。濯の。掙。り。ゆ。る。悟。ぬ。あ。よ。香。の。牙。の。あ。よ。を。海
 ち。そ。の。月。を。送。ま。か。る。凡。夫。の。煩。悩。も。さ。る。こ。天。の。あ。よ。と。さ。る。お。ん。牙
 ろ。ん。ど。が。附。焼。又。で。煩。悩。の。根。が。切。り。去。り。欣。慈。悲。吾。根。を。去。り。の。あ。よ
 幸。れ。め。え。と。る。天。の。依。佑。虫。同。松。の。吾。們。よ。ひ。ま。揚。子。ゆ。る。あ。よ。ら。ば。や
 の。と。菌。は。豈。被。せ。ぬ。蟬。声。よ。高。く。さ。ま。り。老。夫。婦。秋。を。あ。ぬ。け。合。わ

としてあるは鶴養石木魚とも少くもせぬ述懐の上の
 見せりのところろ可笑しく。愛兵衛の声を激し。むじ唐士そんぢよ
 楚國の陣と指と賣るりのあり。陣を買んとするのあまは。この陣の
 税とて織の指も徹るといふ。又指を買んとする。この指とて款と防げ
 ば。莫耶が初も徹とてとる。あの人でてこそと詰り。りおぬが陣とりて
 おぬが指と徹とてとる。つふとと同一く。是れはさうさうありつゝ。面
 と報くせしとや。まづればおん才が述懐の陣と指とを賣ふ似る。人を救ふ
 の何よまれ。あうまはあまは。禁付が悪を助けて。忠臣のつとめを
 不孝不義の白物を救はん。救はんは。救はんは。骨肉の親と恩愛の情
 又子不孝の力のやある。まづるふその子不孝や。又の教よあまは。こと
 とゆは骨肉の愛と捨てこそと追入のまづ。懲えん為るうとも。一夕の家

宿ともいひせせ。一碗の飢あも苦しませ。おのが家へ引入して快く
 こそと養ひ。うづらつておき。偏屈の親又か見え。とればとて世間
 日ハ照るや。一体親の雪隠をうへ。屎とひる人間ハ何よつけても売が
 さらぬ弱いと死は道流とさるも。又身の一泊や。とその子みららとつけ
 るゆ急燃る薪は油と沃。その標と改んと。あまは。悪く思ふみまが
 来て一年居食ひは。糞と下。親か損うけて。文流とさるも。往とある。その
 と死して憤り。彼畜生の思ま。か。この里へ足踏。骨を推ぐ
 腸と冷んと。見る人毎に罵。告て煩惱の鹿角を添え。胸の煙の絶間
 る死と。さうとて。了簡ら。ひ。その親よ。孝も。信も。死白徒
 の悪を助け。その思恵は。誘らんと。思を感。この
 なよ。幾人の。救ひ。独り。遂に。

のり。かる徒を救人と救りぬふやとよ。この道理と時りの良人は暇
 とて密夫と奔り。或は主の女兒を竊りて糸を埋るを引入て主は
 追り親良人小通り。おのが強侠おまじして理るくことと夫婦と。そよ
 るる吾根あつとあふの前よふ不孝残忍の徒と助るふことあるに
 り。その思義とあるとあつハ隙を積牆を踰夫と捨子を捨く。未
 覚つるの死人とあつ。じ色情ハ賢不肖よりよ。文君が相如よ
 喜り。政子が武衛小奔する及びて。世の奸夫淫婦ハ論ハが。されば
 むん身が女兒よ赤牛の控護をるる。金残を費。淫を賣せんとて身
 の利を謀。その子は淫奔を教する。そとめ。艶曲野声ハ不孝不義
 の媒妁とる。親を親り。六の密夫と共よ。度申。罪を
 論く。ことと賣り。陷阱を設て。その子を墮せ。加。身價の妻
 少と論く。十六年の養育代と稱ると不仁の至。不慈の至。人倫の上
 あり。論く。その子の淫乱不孝。うら歎くべ。そのれも教不
 志。ば。棄るの外。ことと棄て。顧る。又秋の慈悲る。その子の不孝
 淫奔と幸。これを賣て利と。その子の不孝と親の不慈と天秤よかけく
 見よ。えて軽重る。いふ。の聖王ハ民の罪と。ことと己。徳を脩め
 る。か。多。刑罰年。小寛る。その國治。悪民。後の乱王ハ。ば
 身。の。民。犯。練。の。刑罰を重。日。月。賊民
 起。て。その國。止。び。且。君子。徳。を。改。め。小人。徳。を。飾。る。君
 子。の。子。を。遠。く。何。ぞ。や。勢。ひ。初。ま。れ。ば。父。教。を。師。の。嚴。う。ら。さ。る。これ。その子
 を。捨。る。こ。が。る。多。理。義。よ。月。る。の。罪。を。お。の。家。の。理。を
 する。主。の。不。徳。る。その。子。の。不。肖。る。父。の。不。徳。る。人。の。賢。不。肖。ハ。天性。よ

夢枕心士傳卷二

十五



老の浪たれじ
かみのり
月のぬらも
久きやういせ
かゝるる

徳目心天衛後編卷二

十九



徳目心天衛後編卷二

煩悩の火を滅えんとするが、子牙は猪母と考ふまらざるべ。伯禽ハ周ニ曰ク
 おん子あり。魯國と治びざるや。周問のへば。周公よるは。ちられぬ。教て
 利して利せざればと宣ひし。利して利せざれば民を利しておのが利と
 去らざる。君子ハ人を利し。小人よおの事を利と己を利するがあらん人
 とせざれば。このゆゑも煩悩多し。むろし楚國あり。弓と遺せしめあり
 けり。まるまらざるも。事を索ねば。ある人よ。友を問よ。これハ楚
 國の人あり。楚國の人を事を拾ひよ。又何と。情まんといひ。孔子これ
 と傳へて。り。楚國の楚の字を去るべし。よく可と宣ふ。よ。こ。ろ
 ハ楚國の人の遺し。る。弓を楚國の人よ拾ひせんとあり。る。ハ。し。ま。ら。ざ。り
 私と脱まざらん。と拾ひせんと。い。と。死。ハ。い。よ。く。ら。る。べ。し。と。こ。こ。く。て
 老子も。道と。す。て。人。と。い。ふ。字。を。去。り。よ。る。べ。し。と。い。ふ。可。ら。る。べ。し。と。い。ふ。

こ。ろ。ハ。人。よ。拾。せ。ん。と。い。ふ。と。死。ハ。る。毎。私。あ。る。何。ら。拾。り。拾。り。た。れ。ハ。惜。ま。ら。ざ。り
 と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。道。と。利。し。て。利。せ。ざ。り。と。い。ふ。べ。し。人。お。の。く。さ。ま。と。死。ハ。
 愚。る。る。長。あ。る。ふ。お。び。て。ハ。智。あ。る。と。い。ふ。の。り。智。あ。る。と。い。ふ。と。
 私。せ。ば。女。さ。と。死。の。愚。ハ。私。ふ。ま。ら。ざ。り。と。い。ふ。晋。の。平。公。ハ。大。國。の。君。あり。その
 臣。祁。黄。羊。と。い。ふ。の。ふ。宣。ふ。や。今。南。陽。と。い。ふ。邑。よ。令。り。誰。を。ら
 こ。宣。ふ。任。ぶ。と。同。ハ。祁。黄。羊。答。て。解。狐。と。い。ふ。の。ま。ら。ざ。り。と。い。ふ。
 と。ま。ら。ざ。り。と。い。ふ。平。公。眉。根。う。ら。し。と。せ。と。解。狐。ハ。子。が。怒。あ。る。の。の。ら。ら
 ぶ。や。と。解。狐。の。へ。ば。と。い。ふ。君。今。南。陽。の。令。と。同。ハ。せ。め。の。ふ。と。と。
 う。け。め。つ。且。臣。が。怒。あ。る。の。の。と。同。ハ。い。ふ。の。の。と。い。ふ。と。回。答。し。る。平
 公。答。び。て。や。が。解。狐。を。用。ひ。し。の。ひ。ま。か。て。亦。平。公。祁。黄。羊。よ。同。ハ。い。ふ。
 ち。う。が。國。よ。尉。と。い。ふ。の。の。り。誰。を。用。ひ。て。可。ら。ん。と。同。ハ。し。る。と。い。ふ。



老の浪たれい
かき
かき
月のぬらも
かき
かき

徳田心天齋後編卷二

二九



おの川

祁黃羊答て午といふのめを用ひる。まうおべーといふは平公亦肩
 うら頼め。午の是子が児る。と研りぬ。祁黃羊答て。されば
 こが君臣が子のことと問せぬ。あつてあつて。尉とす。めりぬ。あつて午は
 するののなる。たよ。こが子とて薦め。まうさ。さ。らんや。と回答。く。平公
 あく飲びて。か。て。是を用ひ。く。晋の圃。く。治りぬ。魯國の先聖。これ
 と。て。善哉。黃羊が。の。と。論。する。外。の。の。雙。と。わ。び。と。これと
 吹。奉。し。内。の。子。と。避。び。と。ことと吹。奉。と。公。の。つ。つ。と。て。あ。く。答。
 ぬ。ひ。と。秦。の。丞。相。文。信。侯。の。つ。か。る。人。の。煩。悩。多。富。人。の。富。と。り。て
 人。は。驕。ま。る。も。あ。り。と。い。ふ。も。道。と。り。る。人。の。え。も。う。ら。ぶ。む。勢。ひ。の。人。勢。
 と。り。て。人。の。驕。ま。る。も。あ。り。と。い。ふ。も。私。の。人。の。諷。つ。と。階。侯。の。珠。の。至。宝。
 あり。り。階。侯。の。珠。と。り。て。高。と。梢。の。雀。と。弾。ば。る。人。の。う。ら。ぶ。笑。べ。い。

その笑ふ所以の何ぞや。重と宝とめて怪と雀と弾ばるる人の世よ
 ある。性命より重と入る。まうを情慾の為は煩惱絶と身とて用ひ
 ぶ。病。煩。せ。天。年。と。い。ふ。ぬ。の。の。珠。と。り。て。雀。と。弾。が。び。の。情。慾。何
 めのそといふは人生して慾あり情あり。又情慾あるがなよ貪ることを好む。
 貪ることも与へれば。又煩惱とるをせり。か。る。な。よ。聖。人。の。礼。を。制。し。節
 を。備。め。慾。を。止。め。て。その。情。を。割。り。ぬ。る。君。又。の。道。の。仰。て。高。く。臣。子。の
 道。の。俯。て。低。く。君。出。ま。ば。臣。跪。さ。又。坐。せ。が。子。の。立。る。礼。儀。三。百。威。儀。三
 千。の。情。慾。を。正。す。の。準。繩。と。る。されば耳の声をさひ目の色をおひ口の
 味ひとさふの情あり。この三つのめへの貴さも賤しぬも。智あるも愚ある
 も。これとさふといふとさふは。聖。人。の。情。を。失。つ。と。道。よ。か。る。ひ。
 凡人はその情を失ふなよ道よなるべし。と。か。く。う。ら。ぶ。笑。む。五。味。を

待正ありて情と失ひざるのこ。譬は大海の物と結とるけきも。兩
 亦も塵芥も。穢流も百川も。まゝまゝはぬるがじ。且これと容れて漏
 さと漏らされども溢るるを彼者へ到るといふあり。亦賢人の弊とまじ
 異なる。飲その情と失ひとどしども。結正あり。結といふも。まづうら求め
 うら煩惱を漏らさるも多し。盈て溢るるを。譬は酒と篩と上戸といふ
 りのよ例る。容る知分量よりなりあれども。底も穴ありて数百物乃
 酒と容る。よくこまを漏らし。溢るるのこ。凡人婦女子に至る。手
 絶洲美坂の人のてく。中らとまけて情と失ひ正女らに。雲ハ草の袋
 小物を入まじ。口と締るがじ。物もまじ。入まじ。出まじ。漏らば。溢る
 も多し。煩惱とある。煩惱ハ人慾の難病あり。奸悪とあり。土地よ。首と喪ハ
 る。煩惱の劇病良医神薬ありといふも。竟も救ひがたの症。一朝

の怒りよ。その身を畏ハ煩惱の癩病。且三緘の警と慎びて人を罵
 ハ煩惱の激言あり。き情も意も。路は死人と。人の煩惱の大熱なり。
 も多し。俗人の男女の恋憐。く。餘るを顧る。と。の。不。せ。る。と。も。あ。つ。く。る。と。も
 止足。の。よ。り。と。紙。ま。つ。ぶ。へ。甚。く。貪。り。終。に。禍。と。穢。と。ハ。煩。惱。乃
 脾腎虚る。こま。と。煩惱の四病。と。ハ。病。ハ。ま。ら。る。と。う。生。じ。養。生。也
 又。う。ら。う。成。る。夫。湯。と。り。て。その。沸。と。止。ん。と。ど。る。と。死。ハ。その。沸。と。い。ふ
 止む。怒。と。り。て。煩惱を止んと。ど。る。と。死。ハ。煩惱。ま。や。り。止。む。と。う。よ。う。つ。て。
 医者ハ薬剤と。り。て。病。と。逐。ハ。除。り。の。こ。を。よ。ら。し。の。人。こ。ま。と。賤。術。と
 ちて。甲。先。り。療。治。ハ。末。あり。艱。生。ハ。本。之。人。その。本。と。舍。て。只。その。末
 と。求。む。神。医。あり。と。い。ふ。も。妖。術。多。く。仙。丹。あり。と。い。ふ。も。病人。多。く。人
 その。艱。生。と。好。ま。れ。む。おん。牙。も。た。や。その。本。よ。う。り。て。七。十。年。の。非。と。あ。ら。ぶ。

煩悩の雲忽地霧て真如の月は道と照され彼岸へ到る。と口の酸く
 るる。何と鏡示せば道樟悩み欠く。さてもく去らば流るる。某
 ひく。博物の客はつる。聖人の世と憂る。尤甚。堯の形貌の
 腊の正。腊は乾肉とてひりの正。舜の形貌の腊の正。腊と乾肉を
 維又鶴の焼鳥の類あり。禹の手足は胼胝絶む。日月とて黎物と
 孔子の形貌は累とて家と喪ふ狗の正。夫聖人の世と憂ひて。迄
 憔悴もつた。凡人の情慾は異なる。凡人の情慾は異なる。凡人の
 聖人も又煩惱ありといふべし。亦博物のつる。あはし。魯の國の賢人は
 公明儀といふ人の。あつ。日牛は對ひて琴と弾き。清角の操。つとつ
 く。採將せども。牛のこまを穿ぬ。海と雪花菜を食入て。人も久らむ。
 こま牛の穿ぬる。あは。その耳は合され。あは。かくて又その調と轉

蚊の聲。乳犢の鳴とて。故や。虫の聲の正。或は乳犢の鳴。やうある
 操とて。牛の尾と掉。蹠蹄。耳と奮て。こまを聴く。こまの意は
 稱ふもの。今客人の説とて。調とて。こま。耳は合む。こま。公
 明儀が牛はつひて。清角の操とて。如し。されば。大声の里耳は入
 ど。とつり。大声のり。人の樂。里耳の里俗の耳あり。大声の樂のめん
 と。も。里俗の為。奏とん。バ。勞。又。終。功。智音。遇。琴。を
 彈。も。益。詩。人。遇。詩。を。献。も。无。達。む。孔子の馬放とて。
 稻を食つ。農夫ら。後。立て。その馬を捕て。孔子とて。孔子とて。
 子貢を遣く。その馬をり。とめ。子貢の礼儀を厚く。利害を鏡と
 喻せ。その人。道と聴く。つ。返。充。さ。ら。ら。あ。が。れ。が
 五。の。の。説。と。て。孔子亦馬飼とつる。その馬を求免

さういふ馬飼只一言をまぐて忽ち農夫も承知させ馬を牽きて
 牽けしとや。童子貫か説とて馬飼か説とて。理めりあへ
 めふ只その意よめと合するの。さればこそ小児の童子と友と。老
 翁の老翁と友と。智者の賢人と友と。愚人の不肖者と友と。酒客
 の解翁と友と。下戸の茶家と友と。信客の家味と友と。不善者
 の悪人と友と。同病相求め同病の相憐む又怪む足る人おのく
 好むおれれば又おのくはる。故るを援て目前の理論を博
 士ふりて替家を威よとへ。おん身よ及ぶ。使者と交る。酒客を
 飲せ向又と棄ひて聞静と推鎮する。おん身よ及ぶ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯

論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯
 論と好む。意思の弱のなりと所あり。おん身よ長するあへ。おん身か辯

○總評

いふ人の人たるものあり。人生まて善よとむ。悪よ進
 みの人。それを物よ。地上一鹽の水を覆ふ。そのま
 のまると左よ。右よ。左よ。右よ。の形を。圓なる
 の稀る。如く。愚退て。念ふ。論の。所

ある欵夫水のゆく高は其が必とせしめて左右に流れ低れば其のうらぶ
 おもひつてその上へ出づるものも人情のあつたきたよめへの登りんとあひ
 低くは臨むが出るとせしめて鳥獲の身カの人りの奔る牛の尾をひき
 おもひふ牛の勢ひるを止むべしその尾をひきさらだりて己ぬべし情慾の
 禁がたれた奔る牛と鳥獲の如く相挑むと甚くして天禀の性
 情の種々の禍を惹き起す牛の尾を断り是るもど奔牛の情慾を止む
 鳥獲の法度とかるを聖人の情と失せしむ慾を禁めよく礼節とさす
 のの且水のうらぶ止り低くは就く水の性なり聖人その情を失ひ
 ぬらざるふ怒るべし人生まて善も進みぬ悪も進みぬの善を偷ん
 ぬ童子ホカサの管りて吹くシヤボコといふりの善も近し故にふ
 とるまばその泡の管より出て假し珠とあるとまばる圓しとれ人
 不登れば本然の善も既よその管をよする風も隨て飛揚するを
 見えばさぬぐの形とあるまらまども始終真も圓も稀あり善も
 進むりの稀あるも又かくの正なる情慾の風も誘引して天禀乃
 性と失ふよあまびやその圓も方なるもあがめるも直るもよれも
 あれれもあまびやが短く風のまきく消るるは「り」くシヤボコと
 見る人のあまびや慈航の纜を解きて煩悩の泥海を漕ぐるも復
 峯へ到らんる実も疑ひるといふ欵

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之二甲

古事記下新編卷二

七五

